進路支援部通信・進学編

月刊　羅針盤　11月号

～誠実・気魄・寛恕・創造～

鹿児島県立種子島高等学校　［令和８年 11 月 11 日発行］

それぞれの学年になって８ヶ月が経とうとしています。この時期にそれぞれの学年に意識して欲しいことを紹介します。

【3 年生】大学入試に向けて大切にしたい 3 つのこと

受験本番に向けて、これまでの努力を結果につなげる大切な時期です。次の 3 つを意識して学習に取り組みましょう。



① 基礎を大切にし、繰り返し復習する
　難しい問題に挑戦するだけでなく、基礎・基本の定着を徹底しましょう。間違えた問題は、必ず自力で解けるまで復習することが大切です。

② 模試や過去問を最大限に活用する
　模試の判定に一喜一憂せず、間違えた原因を分析しましょう。過去問にも取り組み、出題傾向や時間配分を把握して、本番に備えましょう。

③ 最後まで諦めず、挑戦し続ける
　思うように成績が伸びず、不安になることもあるでしょう。しかし、最後まで努力を続けることが大切です。自分の可能性を信じ、粘り強く挑戦しましょう。

【2 年生】進路選択で大切にしたい 3 つのこと

進路選択は、自分の将来を考える大切な機会です。周囲に流されず、自分が納得できる進路を見つけましょう。



① 自分の興味・関心や将来の夢を考える
　好きな教科や得意なこと、学んでみたい分野は何ですか。将来就きたい職業や夢から逆算して、必要な進学先や学びを考えてみましょう。

② 進学先や就職先について調べる
　大学・短大・専門学校で学べる内容、取得できる資格、卒業後の進路などを調べましょう。オープンキャンパスや学校説明会への参加もおすすめです。

③ 自分自身と向き合い、早めに行動する
　希望する進路に必要な学力や資格を確認し、今の自分に足りないものを把握しましょう。先生や保護者にも相談し、具体的な準備を始めることが大切です。

【1 年生】2 年次の系列選択で大切にしたい 3 つのこと

普通科の皆さんは 2 年次からは「理系」「文系」「教養系」「生活系」の 4 つの系列に分かれます。これからの学びや卒業後の進路を考え、慎重に選択しましょう。

① 学びたい学問や将来の夢から考える
　自分が興味を持っている学問や分野は何ですか。将来就きたい職業がある人は、その仕事に必要な知識や資格、進学先を調べ、系列選択につなげましょう。

② 4 つの系列の特徴と進路を理解する
　文系・理系は国公立大学や難関私立大学などを目指す学習が中心です。一方、教養系・生活系は短大・専門学校・私立大学への進学や就職などを主な進路としています。それぞれの特徴をよく理解しましょう。



③ 自分の適性や将来を考え、納得して選ぶ
　得意・不得意だけで決めるのではなく、将来必要となる学習内容を考えましょう。大学の学部・学科などの調べ、保護者や先生と相談しながら、自分に合った系列を選びましょう。

進路選択に正解は一つではありません。大切なのは、自分の将来と向き合い、自分で考え、行動することです。今の一歩が、未来の可能性を広げます。

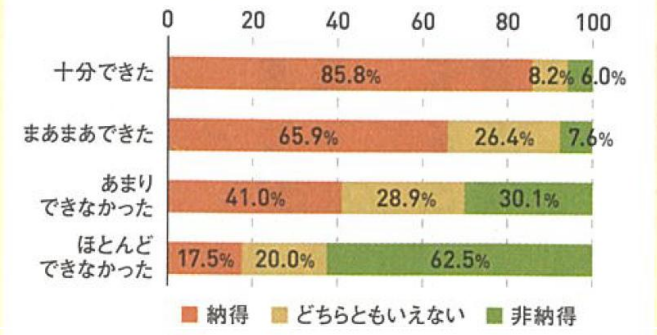
種子島高等学校進路支援部通信　**月刊　羅針盤**　［令和８年 11 月 11 日発行］

さて、変化の激しいこれからの時代、生徒の皆さんはどのような未来を見据えて進路選択していけばいいのでしょうか。

1. 進路の納得度を高める鍵は「先生との深い対話」

株式会社リクルートの調査サマリー（2026 年）によると、高校卒業後の今の進路に納得している層は全体の約 7 割弱（65.9%）を占め、一定の満足感が見られます。その一方で、約 3 人に 1 人（3 割強）は「第一志望に不合格だった」「学びたい内容と異なる」といった理由から、今の進路に完全には納得しきれていない現状があります。しかし、たとえ第一志望を逃した生徒であっても、その後の納得度を劇的に引き上げる決定的な要素があることが分かりました。それが「高校の先生との話し合いの程度」です。

■ 先生との話し合いの程度別進路への納得度



※出典　リクルート『Career Guidance 2026 OCT. Vol.460』

進路選択における高校の先生の役割は、単に具体的な学校選びをサポートしたり、情報を提供したりするだけではありません。納得いくまで「相談できたという安心感」そのものが、結果的に生徒の納得度を左右しているそうです。対話が不足すると決定後に割り切れない想いを残しやすくなるため、次のステージへ前向きに気持ちを切り替えるためにも、ぜひ先生としっかりとした話し合いを行いましょう。

2. 社会が求め、大学が重視する「非認知能力」の時代

株式会社ベネッセ i-キャリアが実施した「企業の『新卒採用動向』における調査 2025」と「大学キャリアセンターの学生キャリア支援における調査 2024」によると、採用選考において企業が評価する力と、大学が評価してほしいと考える力の上位 3 つが完全に一致していることが明らかになりました。

■ 企業における「選考基準」と大学の「学生を評価してほしい観点」

企業		
#	項目	割合
1	人柄や性格	59.5%
2	自社への熱意	43.5%
3	汎用的スキル（思考力，問題解決力等）	42.6%
4	採用ポジションへの適性	40.3%
5	専門的スキル	32.3%

大学		
#	項目	割合
1	人柄や性格	92.8%
2	志望企業への熱意	70.0%
3	汎用的スキル（思考力等の問題を解決する力）	66.4%
4	正課外の経験	43.3%
5	スキル、資格以外の大学・大学院で身につけた専門性	39.7%

※出典　ベネッセ i-キャリア「大学キャリアセンターの「学生キャリア支援」における調査 2024」

ここで最重要視されている「人柄や性格」とは、単なる生まれ持ったキャラクターのことではありません。職場の多様な人々と協働し、困難を乗り越えて成果を出す上でベースとなる、主体性やコミュニケーション力、あるいは「レジリエンス（回復力・精神的な復元力）」といった、いわゆる『非認知能力』に密接に関わっています。非認知能力は、他者との関わりや、多様な経験とその振り返りを通して育まれます。近年、多くの大学が企業と連携して課題解決や製品開発に取り組む「PBL（課題解決型学習）」を教育課程に導入している（約 45%）のも、この主体性と協働性を一体的に育むためです。高校段階から、答えが一つではない問いに対して試行錯誤を重ねる経験を積むことが、社会とのスムーズな接続を生み出します。

【出典・参考資料】
・リクルート『Career Guidance 2026 OCT. Vol.460』「データで紐解く、進路選択の今と未来」
・ベネッセ『VIEWnext 高校版 2026 October』「社会が求め、大学が重視する『非認知能力』」